

9月19日、早朝、参加者車に乗り合わせ松本を出発。AM8:00 総勢 22 名が白馬猿倉登山口に集合。準備をして AM8:30 出発。天候は晴れ。仰ぐ空に白馬岳主峰が、空を覆うように大きく聳えている。林道を小一時間歩き、岩礫の登山道を暫らく登ると、夏季は白馬大雪溪末端となる白馬尻に到着する。

林道を行く



雪溪上部を登る

白馬尻から見上げる大雪溪は、大きく口を開けて割れ、上部は濃霧に覆われ、登攀を阻むように流れ落ちている。小休止後、吹き降ろす冷風に注意して、準備し直し登り始める。15分ほどで、雪溪末端に着き、4本歯アイゼンなどを装着する。一步、一步固い雪溪に足場を確認しながら登る。一時間ほどで、雪溪を登り切り、ガラ場を詰めて登る。夏季より、雪溪が溶けて沈み、目減りしているようだ。

杓子岳左、白馬鑓を望む



白馬岳に登頂

小雪溪を左に見て葱平を過ぎると、霧が晴れ、稜線近くに建つ頂上宿舎の建物が見える。稜線に出ると、北方に高く屹立した山頂が望まれ、西風に吹かれながら枯草の稜線を登る。PM3:45 白馬山荘に到着、泊す。早速、荷を降ろし山頂へ向う。PM4:30 石の道標が建つ白馬山頂 2932mへ全員登頂する。

翌 20 日快晴、強い西風。南西に三角推形状の剣岳が聳え、東に遠く富士山を眺望する。AM6:30 寒さ対策の準備をして出発する。稜線を辿り、急傾斜の岩礫帯を登り詰めれば、AM8:00 杓子岳 2812mへ登頂する。眼下に白馬村の平野が広がり、北方に妙高山、火打山を眺望する。白い岩礫帯の稜線から鞍部に降りて西風に吹かれながら再び 1 時間も登ると、AM10:00 白馬鑓ヶ岳 2903mへ登頂する。

白馬鑓(左)、杓子岳(右)を登る。後方に



白く輝く白馬鑓ヶ岳

山頂からは、南に唐松、五竜、鹿島槍ヶ岳が連なり、北に聳える白馬、杓子岳を合わせると、後立山連峰全山を望むことが出来る。風を避けて、憩いのひと時を味わう。全員の記念撮影の後、名残を惜しみながら下山開始。下山途中、何度も振り返り、真白に輝く白馬鑓ヶ岳の神々しい美しさに感動する。稜線の分岐から、紅葉が始まった大出原に下り、PM1:30 鑓温泉に到着。泊す。ここは日本一標高の高い温泉として有名。少し熱い温泉に浸かり、登山の疲れを癒す。

21日、快晴の朝を迎える。AM7:00 支度を整え、下山を開始する。溪流を渡り、ガレた山腹を巻き、高度を下げる。紅葉が始まった下山路から振り仰ぐと縦走してきた白馬の三山が眩しく望まれる。AM11:45 猿倉に到着。弁当昼食後、往路と同じように車に乗り合わせ、連休で混雑する国道を走り、PM2:30 松本で最終解散とした。「紅葉に映えて、白く輝く白馬三山の峰々。鑓温泉もゆっくり浸かり、思い出深い登山となった。」



鑓温泉露天風呂